

第49回日本のうたごえ全国協議会総会

方針

はじめに

昨年11月に開催された「被爆・戦後70年2015日本のうたごえ祭典 in 愛知」は、3日間でのべ17000人近くが集い、「いのちの輝き・平和・生きる力」を高らかに歌いあげ、大成功をおさめることができた。

昨年は、2千数百万人のアジア諸国民、310万人以上の日本人が犠牲となったあのアジア・太平洋戦争の敗戦から70年の節目の年であった。

「70年談話」で、侵略や植民地支配を認めることをかたくなに拒否、「反省やおわび」も歴代政権が表明したという事実だけで、自らの言葉で一切語らなかつた安倍首相。戦後日本の平和の礎となった「ポツダム宣言」すら読んでいない首相に「戦後体制（レジーム）からの脱却」を語る資格はない。戦後70年を、この戦争で命を奪われた兵士や無辜（むこ）の人々の無念と平和の尊さをあらためて思い起し、二度と同じ過ちを繰り返さないと誓う節目にすることが、憲法九条を擁する主権者である私たちと日本政府に課せられた宿命的責任である。

ところが、昨年9月19日未明、安倍自公政権は、大多数の世論を踏みにじり、戦争法（安全保障関連法）を数の力による強行採決で成立させた。このことは、「主権在民」「恒久平和」「基本的人権の尊重」など憲法の原則をことごとく否定したものであり、憲法学者をして「法学的

にはクーデター」とまで言わしめた。

この影響で自衛隊への応募者が減少。防衛省は危機感を募らせ、個人の承諾なしに自衛官適齢者の名簿を自治体に提出させたり、小中学生を駐屯地に招いて「職場体験学習会」を行う等、なりふり構わないリクルート作戦を全国で展開している。

また、自治体の施設を利用した護憲・原発反対などの市民集会の後援申請が「政治的中立」を理由に拒否されるケースが相次いでいる。長崎では被爆者が、中学校で被爆体験の講話の後に、日本軍の加害責任や原発を語り始めた途端、校長から大声で遮られた。政治的中立を名目に、議論があるものを避ける風潮が表れている。政権批判もできない、自由にもも言えない社会を二度とつくらせてはならない。

この戦争法に対し、多くの憲法学者、弁護士はじめ、これまで政治的行動には無関心と言われていた大学生や高校生、ママさんたちまでが街頭に出て声をあげるといふ、廃止をめざす国民的運動が空前の規模で広がっている。

音楽関係者、団体でも著名音楽家9人がよびかけ人となり、うたごえ・労音・音楽センターが事務局となって発足した「戦争法に終止符を！音楽人・団体の会」には、本年1月末で450人（団体含む）を超える賛同が寄せられている。

いまこそ、「アベ政治を許さない」たたかいに、歌や音楽で連帯し、全国で行動と共同の輪を広げていくことが何よりも重要となっている。

「歴史的にも現在も沖縄県民は自由・平等・人権・自己決定権をないがしろにされてきた」。12月2日、辺野古代執行訴訟の第一回口頭弁論で翁長知事はこう述べた。沖縄県民の8割が新基地建設に反対し、県知事選、名護市長選、総選挙など一連の選挙で「オール沖縄」候補が圧倒的な勝利を重ね、揺るぎない民意を指し示した。この時点で、本来ならば政府は新基地建設を断念し、裁判は不要であった。

ところが政府は、「日米同盟に関して地方は口出しするな」という傲慢

な姿勢で民意を無視し、強硬な手段で沖縄県を屈服させようとしている。

昨年、日本のうたごえ全国協議会と沖縄のうたごえ協議会との協同で立ち上げた「沖縄を返せ！ 辺野古新基地建設阻止・うたごえ大行動本部」が主催となり、池辺晋一郎・稲嶺進名護市長・糸数慶子参院議員の鼎談をメインにした「うたごえのつどい」を開催。「文化行事で200人以上も参加したのは初めて」（二見以北の会松田藤子会長）という辺野古住民と地元・全国のうたごえ合わせて300人を集めて成功させることができた。県と国との法廷闘争に突入した現在、今年も全国からの支援・連帯のもと、沖縄のうたごえと心一つに取り組みを強めることが求められている。

いまだ10万以上の人々が故郷に帰ることができず、事故の原因究明も尽くされないまま福島第一原発事故から5年を迎えようとしている。安倍首相は、「汚染水は完全にコントロールされている。健康問題は全く問題ないことを約束する」と述べた。福島の子どもたちに甲状腺がんが多数出ている状況を、この国の政府はいつたいどう見ているのか。奇しくも今年、チェルノブイリ原発事故から30年。政府は、この事故で数百万人の住民が健康被害を受けていることや、福島原発事故はチェルノブイリ以上の放射性物質を放出していることも熟知しているはずなのに、ろくに調査も情報公開もしないまま、政財界挙げて原発再稼働への道を突き進んでいる。

昨年、うたごえは、核不拡散条約（NPT）再検討会議成功めざしNY行動に42人の代表団を派遣した。世界がNPTの普遍化を願う中で、日本政府は、このNPT未加盟の核保有国であるインドへの原発と武器輸出を可能にする協定を昨年末の日印首脳会談で原則合意した。このことはインドの核開発に手を貸すことになり、「唯一の被爆国」として絶対に踏み込んでほらない道にまたしても一歩踏み入れた。

「一億総正社員社会にしてください―派遣社員―安倍首相殿」（神戸新聞1月1日号川柳）。

アベノミクス戦略で株高をおおる一方、労働者派遣法改悪案を昨年9月に強行成立させた安倍政権。全労働者のうち非正規が4割、一層「生涯派遣」「正社員ゼロ」の社会に道を開くもので、貧困と格差をますます深刻化させている。

うたごえは2018年に運動創立70年を迎える。一昨年、運動内に創造面における70年プロジェクトを立ち上げ、取り組みをすすめている。今後、2018年を通過点とする、創造と組織を両輪にしたうたごえの将来ビジョンも計画していきたい。

とりわけ運動の大きな集約点となる日本のうたごえ祭典。今年、四国初開催となる愛媛で、来年は全北陸の協同による石川県金沢で、来る18年は首都東京での70周年記念祭典の開催が既に決まっている。

東京以降の祭典候補地については、常に5年先を見据えたプランニングをもてるようにしたい。

世の中が動き、社会に運動が起こり、一人ひとりが変わっていくとき、そこに人々の声が高まり、曲が生まれ、歌声が広がっていく原動力が生まれる。

いま、日本列島は、いのち、震災、原発再稼働、環境、教育、TPP等への危機意識、怒り、願い、希望、祈りで満ちあふれている。こんな時こそ、まさしく「うたごえ」の出番である。

時代と社会に真正面から向きあい、音楽で何をどう表現していくか。

憲法のところをうたに、運動70年をめざす演奏創造、創作の大普及活動と加盟団体・会員の拡大、うたごえ新聞読者拡大を成し遂げ、憲法公布70年の今年を一大飛躍の年にしようではありませんか。

2015年度 活動のまとめ

1 うたごえを創り広げる活動

①「憲法の心」を輝かせる活動

基地のない平和な沖縄・日本をめざすうたごえは、沖縄県民大会への緊急派遣をはじめ、沖縄行動本部を設置し、うたごえ沖縄基金を募集し、7月にはうたごえのつどい in 辺野古を地元の人たちとともに、11月には第二次行動を沖縄の青年たちととりくんだ。教育、保育のうたごえは祭典等の沖縄開催で、また、全国の合唱団が辺野古の座り込みに参加し、うたごえで激励した。日本のうたごえ祭典では、山城博治さん、島袋文子さんのビデオメッセージも届けられた。各地で、辺野古支援コンサートがとりくまれた。

戦争法案(安全保障関連法案)反対のうたごえは、全国各地から起こり、7・18の「アベ政治を許さない!」全国統一行動での一斉行動はじめ、「戦争はもういやだ」「軟弱もの」などを歌って声を上げた。9・19の強行採決後も、廃止を求める毎月19日行動などうたごえを届けている。

震災後まもなく5年を迎える東日本大震災の被災地への連帯活動も、祭典での小田美樹さん指揮での「群青」の演奏をはじめ、引き続き宮城での仮設住宅うたごえ、レガートの震災復興チャリティーコンサートなど、まわりの人々と共に取り組まれた。

②「いつでも、どこでも、うたごえを」を合言葉に、歌う喜びをひろげる活動

気軽に参加してうたごえ喜びを共有できるうたごえ喫茶の活動も引き続き広がっている。祭典では、大みんなうたごえでそれらの歌いたい要求にこたえた。

大阪都構想に対して、橋下・大阪維新政治による文化切り捨てを許さない! と党派を超えてとりくんだ大阪のうたごえは、連日うたごえ宣伝行動を組み、電車内でのうたごえ宣伝など、マスコミにも取り上げられ、阻止の力となった。

3・1ビキニデー、メーデー、憲法集会、母親大会、原水爆禁止国民平和大行進など、各種の運動の中でうたごえを響かせた。原水爆禁止世界大会では、被爆70周年の特別企画を共に企画し、全体会を盛り上げた。兵庫で行われた日本母親大会では、県の大会から引き続き全体会で300人が大合唱した。祭典に向けてオール大阪はじめ、全国各地で合唱構成「ぞうれっしやがやってきた」(以下、『ぞう:』)がとりくまれ、九州からは新幹線車両を貸し切って「ぞう:」で参加。原発ゼロへ、京都北部3・7原発ゼロ集会で福井のうたごえと合同で「海の軌跡」が歌われた。争議支援のとりくみでは、引き続きJALへの支援はじめ東京でのスクラムコンサートなど各地で連帯のうたごえが響いた。

③NPT派遣のとりくみ

「Before (運動づくり)」と「Action (現地行動)」と「After (帰国後)」の3段階でとりくんだNPT再検討会議へのうたごえ代表団の派遣運動は、ニューヨークへ42人の代表団を派遣。平和コンサート、集会やパレードでのパフォーマンス、NGOの集いの演奏など7日間フル活躍をした。アピール署名20000筆、紙上人間の鎖宣言3816人5104口、NPT平和歌集を使つてのうたごえなど、派遣に向けたとりくみを全国で繰り広げ、3月には、沖縄行動にも参加。帰国後も、各地での報告会はじめ、平和行進への代表団の積極的参加、原水爆禁止世界大会での演奏、日本のうたごえ祭典での演奏を行ない、核廃絶の願いをうたつた。代表団メンバーは、NPT派遣を通して力をつけ、その後各地で頑張っている。

④多くの人が「こぞって歌える」愛唱歌を創りだす

この1年、戦争法や沖縄、原発などに真正面から取り組む力作、安倍政権を揶揄する楽しい作品、そして暮らしの中からの味のある歌の数々が生まれ、新しい創り手や、集団創作を継続しているサークルの作品の向上などもあった。これは、東西の創作講習会(福島、愛媛)と北海道

ブロックはじめ各地のサークル・個人の創作活動や愛知、東京での創作発表会の継続の成果である。福島では、日本のうたごえ祭典 in みやぎで創られた合唱構成「ふくしまに生きる」がその後も県内で演奏され続けている。日本のうたごえ祭典 in 愛知開催の成功も、オリジナルな作品が大きな力となった。

オリジナルコンサートへのエントリーは、質の向上めざし事前検討会で44曲にしぼったが、開催方法についてはまだ工夫が必要である。沖縄や福島への連帯を歌う作品も「作り手の思い込み」に終始する作品は減り、現地との交流をふまえての取り組みが増え、南部合唱団「いつの日かきつと」、合唱団「この灯「明日の空は」」などに結実している。

福島での創作講習会は、北海道から九州まで23人が参加。合宿中に生み出した作品は35。2014年に続き、原発圏内20kmツアーを実施。あらためて現場で現実を見ることの大切さを感じた。愛媛では、地元愛媛をはじめ広島・福岡・大阪・愛知・福島から34人が参加。原発再稼働が決まった四国電力伊方原発オプショナルツアーを実施。参加者の多くが初参加だったがツアーの成果としてそのテーマも含め、23曲が生まれた。

創作活動の裾野をさらに広げることが可能にする創作講習会開催の工夫、辺野古のような緊急切実なテーマでの現地とむすぶ全国的な創作の取り組みが課題である。

2 合唱発表会運動、地域・分野のうたごえ祭典

①県、産別、全国の合唱発表会のとりくみ

32都道府県、7産別、1階層で合唱発表会が行われ、1431団体が参加した。

日本のうたごえ祭典開催地愛知で3割増。協議会再建をした沖縄での開催など運動の総合的な構築の中で広がっている。年に1回の地域の発表会を楽しみに、実行委員会参加団体が新しいサークルを誘ってくるな

どの経験も生まれている。

全国の発表会には、296団体が参加。枠を広げた（交流の部）に67団体が参加。定着してきた。今年も客席の少なさが目立ち、聴き合い、学び合うという合唱発表会の原点を輝かせるための工夫が必要だ。出場部門の偏り、多団体出場者への対応、申込書類の提出期限の厳守、運営、実務面での改善なども引き続き課題となっている。

②地方祭典、産別祭典など

県祭典は8県、ブロック祭典は1ブロック、産別祭典は8産別で開催。教育のうたごえは、再建間もない沖縄のうたごえと合同で開催。「ぞう：」で地元の保育園などへ広げ、沖縄に財産を残した。国鉄は開催地福井との連帯で開催。自治体は神戸市役所センター合唱団の演奏会と合わせて祭典として開催。現役が少なくなっても継続を決めた電通祭典など、ありかた含めて模索が続いている。

書き下ろしの合唱構成劇「一番たいせつなのは：」で政治の方向に警鐘を鳴らした北海道祭典は、持ち回り開催でその時々話題を創り歌ってきた積み重ねが活かしていた。九州のうたごえ祭典は、開催地佐賀でのうたごえを広げての開催。1カ月後の全国うたごえ祭りとも結んでオール九州で「ぞう：」を。いずれも、持ち回り開催が運動を広げる力になっている。次年度日本のうたごえ祭典開催地の愛媛ではステップとなる県祭典を成功させた。

③日本のうたごえ祭典 in 愛知のとりくみ

被爆・戦後70年の節目に開催した日本のうたごえ祭典 in 愛知は、大音楽会7700人、特別音楽会2100人、小音楽会1000人、みんなうたう会400人、合唱発表会・オリジナルコンサートにのべ5700人、あわせてのべ16900人の参加で成功した。

「2000人の『ぞう：』のステージをはじめとした大音楽会では「直接の言葉で歌わなくても、平和への、沖縄への、メッセージが伝わって

きた」という感想にあるように、被爆・戦後70年のテーマがすっかり届いた。特別音楽会での交響曲「炎の歌」、小音楽会での組曲「砂川」も祭典のテーマを引き立てた。「ぞう…」、障がい者、高齢者、などの運動の広がり、林学といううたごえ作曲家を擁した愛知のうたごえが花開いた祭典となった。また、大音楽会への全国からの参加2800人は、全国祭典としての連帯を示した。

④2016年以後の日本のうたごえ祭典のとりくみ

2016年の日本のうたごえ祭典 in えひめに向けて、四国の連帯で成功させようと地元実行委員会が立ち上げられた。2017年のいしかわ・北陸祭典に向けて、準備会が立ち上げられ相談が始まっている。いずれも、全国うたごえ祭りの開催を通し、祭典成功の基礎固めとしてのうたごえ新読者拡大など組織の確立を進めながらの準備が進んでいる。

2018年70周年祭典に向けては、東京での開催が決まり、話し合いが始まった。2019年以後についても、北海道・函館への打診、はじめ、祭典プロジェクトで検討が始まっている。

70周年に向けての創造面での検討を70周年プロジェクトを立ち上げスタートさせ、「未来におくるあなたの1曲」の募集を行った。

3 うたごえ新聞をいっそう輝かせ、読者を常に意識的に広げ、創刊60周年記念「うたごえ新聞まつり」を全国で展開する活動

いのち輝く社会へとうたごえの活動をすすめる力に編集。NPT再検討会議成功NY行動うたごえ代表団派遣を軸に核兵器廃絶、原発ゼロへ、戦争法反対・憲法をまもる運動、沖縄・辺野古米軍新基地建設阻止、震災被災地の復興へ連帯活動を、全国のうたごえ実践と音楽創造へのさまざまなジャンルの運動、識者の登壇―映画監督鎌仲ひとみさん（福島、チェルノブイリからの）、戦争法反対では「人間の最大の罪は戦争」と宝

田明さん、SEALDsの活動。「オケと合唱の両輪で世界を包む」指揮者山田和樹さん。「群青」の作者小田美樹さんら―で発信し、日本のうたごえ祭典 in 愛知成功につないだ

①創刊60周年記念「うたごえ新聞まつり」の中で過去最高読者をめざす活動

1955年4月7日付第1号から創刊60周年を記念し、紙面からの感動をライブで、と「うたごえ新聞まつり」を4月から16年4月まで（沖縄の番外編加え）13カ所―うたごえ運動とうたごえ新聞と深いかわり（まもなく1000回の連載『空を見ますか』執筆）の作曲家池辺晋一郎氏をコーディネーターにゲストとの記念トークと池辺作品の氏指揮によるミニコンサート―「池辺晋一郎の『夢』を見てますか」―で企画・開催。

記念トークには創刊60周年記念号（4月6日付）に特別寄稿「うたごえに乗せる永遠の平和のメッセージ」の作家森村誠一氏をはじめ各ジャンルから多彩なゲストを迎えた（女優・檀ふみ、香川京子、山口果林、若村麻由美。フォトジャーナリスト・西谷文和、大石芳野。歌手・ナターシャ・グジー、クミコ。作家・早坂暁、池澤夏樹、舞台美術家・妹尾河童、落語家・桂米團治、音楽評論家・作詞家湯川れい子。沖縄は稲嶺進名護市長、糸数慶子参議院議員）。このとりくみは音楽創造と出会いを大きく広げた。

読者拡大では、今年度、1006人（1月6日現在）の新読者を迎えた。今年度は拡大運動を活発にするために、組織活動者会議を開催し、経験交流と意思統一をはかった。祭典運動と結んで1000人の目標を達成した愛知。大阪では地域のうたごえ新担当者会議を毎月開催。うたごえ新聞実行委員会も参加組織と読者拡大に特化して開催。うたごえ新聞を軸とした日常活動を展開し、秋以後毎月増紙申請で前進。うたごえ新聞の合同合唱団員は全員購読として支局化を果たした愛媛など、うたごえ新聞をエネルギーに読者を広げた。毎月の支局会議での交流と励まし合

いの中で読者拡大をすすめている奈良の経験が、各地に波及し、読者拡大のとりくみを正面に据えての活動が広がった。

② “うたごえ発ジャーナル”を一層輝かせる “読み・作り・広げる”活動

うたごえ新聞を読み、学び、魅力を交流する “うた新フォーラム”開催は今年はうた新まつりもあり、北海道のみとなったが、静岡では県母親大会の分科会でうたう会と合わせて開催された。

作り（通信・企画提案・感想送稿）では、大阪のうたごえ協議会の府下全域からの精力的な送稿。沖繩のうたごえからは「沖繩の叫び」と題した依頼記事での連載送稿などが特筆される。運動の “今”を伝える上でうた新フォーラム、通信活動をさらに強めていく必要がある。

③ 季刊「日本のうたごえ」の全員購読

季刊「日本のうたごえ」はNo.167〜170を発行。No.167は被爆・戦後70年年頭の号として田中嘉治会長の「うたごえは、『未知との遭遇』（ドラマ）を創る演出家（アーティスト）」を。ジャーナリスト伊藤千尋氏の「歌は生きている。歌を活かして社会を変える」で世界の闘いと歌を紹介。日本のうたごえ祭典 in みやぎ・合唱発表会演奏批評座談会。No.168は被爆者・物理学者澤田昭二氏の「被爆・戦後70年 核で壊された発展方向を取り戻す転機に」の記念講演他、全国総会特集。No.169はNPT再検討会議とNY行動特集。2015日本のうたごえ祭典 in 愛知へ。音楽評論家・小村公次氏の「チェコ音楽の旅」。No.170は、創刊60周年記念うたごえ新聞まつりの記念トーク第1〜4回の全文を収録。

読みどころを知らせるチラシを作成して呼びかけたが、読者数の変動はほぼなかった。No.170は記念トークが好評で若干増。運動を進める上でもっと活用するなど、全員購読への対策が求められる。

4 学習・教育活動をすすめる、次代を担うリーダーを計画的に育てる活動

① 日常の練習や活動の中での教育活動、批評活動、運動の理論活動

全国各地でサークル・合唱団が演奏会を開き、また各種音楽会への出演など旺盛な演奏活動が行われている。客演指揮を招く、特別練習で外部講師を招く、学習会を持つ、作品を深めるために関連する現地へ出かけて交流するなど日常の練習を豊かにするための活動もされている。また、関西合唱団、三多摩青年合唱団、埼玉合唱団など、テーマに沿って合唱曲を委嘱する、編曲する、など新たな作品も多く創られ、合唱団の音楽的成長と演奏の幅を広げている。これらの日常活動の交流、演奏を聴く機会を増やすなどが更に求められる。日本のうたごえ祭典、全国合唱発表会はその良い機会であり、互いに聴き合うことが重要である。

日本のうたごえ合唱団2015を134人で結成し、神戸での「わが街よ永遠にコンサート」（1月）、函館トロイカ合唱団定期演奏会（6月）、日本のうたごえ祭典 in 愛知・特別音楽会等に出演した。全国から自主的に参加する合唱団としてうたごえ運動の創造の一つの到達を示している。その実践から得る経験、交流は教育的な学習として還元されている。また「春の祝福」「私たちの物語」の合唱曲を創作した。

② うたごえ新聞、季刊「日本のうたごえ」の積極的な活用

北海道では、合唱団総会資料に活用し、読者増にもつないだ。合唱発表会講演や各地での演奏会評、季刊「日本のうたごえ」誌上での座談会など、うたごえ運動の創造理念、専門家の指摘等、示唆に富む内容が多い。これらを積極的に活用すること、また、前年度の指摘がどう生かされているか、などの視点も重要である。日本のうたごえ祭典合唱発表会総評での指摘、課題等は、具体的な改善点として、うたごえ運動の前進を図る一助とする必要がある。

③各種全国講習会、協議会やブロック等での指揮者・指導者の交流、ネットワーキングづくり

全国合唱講習会は、西日本が5月4、5日、名古屋市中で204人が参加。東日本は5月9、10日、埼玉県上尾市で118人の参加で行われた。それぞれ日本のうたごえ祭典全国合同等を講習曲として、その音楽的な理解を深めるとともに祭典のイメージを膨らませた。西の講習会では、詩人石黒真知子さんから歌に相對する経験、想いも語られて新鮮であった。東の講習会では日常演奏で使える曲や指揮のアドバイスも行われた。両講習会ともに発声講座が好評で、現在の演奏創造の課題、大きな要求になっていると言える。また、開講前の音取り練習も定着してきている。大勢が集い、日頃とは違う合唱経験を通して実感する音楽作りは大いに貴重であり、日常練習にも生かせる学びの宝庫であることも実感された。今後さらに幅広い講師陣、新たな創造リーダーによる講習の継続、など目前の課題として必要性が強調されている。

第30回指揮・合唱指導講習会（教育講習会）が6月19～21日、長野県松本市で、約100人の参加で行われた。今回は久々に合唱特別講師に栗山文昭氏を迎え、深淵な音の世界が大変好評であった。工藤俊幸氏による指揮法講座、太田真季さんのヴォイストレーニングQ&Aなど、例年の講座と併せて、現役指揮者・音楽リーダー、新リーダー等のもとより、合唱隊としての参加者も音楽づくりの様々な角度からの発見、成長が実感され、貴重であった。全国で実りある豊かな音楽運動を進めていくために、更に参加の幅を広げること、指導者自らが求めて行くこと、またそのための内容づくりの研究、等が更に必要と言える。

地域、ブロック、あるいは合唱団単位の講習会、セミナー、指揮講座等も各地で行われたが、特に北海道ではうたごえ協議会主催による系統的な取り組みが追求されている。合唱・指揮講習会が4月に2日間のべ200人の参加で行われ、道祭典、日本のうたごえ祭典に結び付けられている。また、道祭典合唱発表会に参加している指揮者などが集まって

の指揮講座（8月）、「うたごえ運動70年にむけての夢づくり」うたごえセミナー（10月）、創作合宿（12月）と、年間を通して計画され、実践されている。

「うたの学校」「研究生制度」など合唱団独自の教育活動を知り合うことも重要である。更には、指揮者・指導者が日常の実践を報告し合い、交流し、学び合うことも強く求められている。具体的に結集する機会を持ち、ネットワーキングづくり、情報のやり取り、等を検討し、うたごえ運動の音楽創造のあり方を深め合うことも必要と言える。うたごえ運動における創造の特徴、良さなども明らかにし、幅広く学習を深めていく必要がある。

④運動65周年・関鑑子没40年で出版された「グレート・ラブ 関鑑子の生涯」、記念出版「うたごえは生きる力」の普及と学習を引き続き意識的にすすめる

東京では、「グレート・ラブ」をきっかけに浜島康弘さんを招き、誌面を引きながら話を聞く学習の場をもった。うたごえ運動の音楽理念、創造の源泉、社会との関わりとその役割など歴史的な観点から「うたごえ運動」をみることは重要である。その音楽の力を知ること、そして社会の動きと正しく結びついたときに運動が成長し発展していること、等を学び、今後の前進に結び付けて実践していくことが求められている。

5 青年サークルづくりを積極的にすすめる、青年の要求と結び合い、多くの青年を迎える活動

①サークル・合唱団・協議会で、青年・学生と繋がる活動を意識的に持つ

個別呼び掛けやチラシ等、地域などでの演奏活動だけでなく、Facebook等での広報・発信も活発化しており、大阪・ブルースカイ、東京・調布狛江合唱団青年部などは青年・学生の歌い手と繋がった。毎

年独自の演奏会を積極的に取り組む愛媛・「Green Love Cantabile」は青年・学生の歌い手を定着させている。愛知・東海青年のうたごえは日本のうたごえ祭典in愛知を通じ、県の平和委員会青年学生部や民青同盟など青年の歌い手を広め、保育分野の青年との繋がりが強くした。また、祭典のなかでは、中心担当者は青年ではないが、愛知県下の高校に手紙のべ180通もの発送をするなど奮闘し、中・高校生を含めた初の学生ステージを実現した。

しかし、多くの青年・学生と繋がれてはいないため、サークル・合唱団・協議会同士で青年層について日常的に議論しながら連携していくこと。協議会としての青年学生部・担当常任や、青年独自での青年学生連絡会などの活動を活性化させていくこと。サークル・合唱団の青年層をうたごえに定着させ、世代間で活動を継承していくこと。などが今後必要である。

②仲間づくり、サークルづくりへ、団体・分野を越えたネットワークづくりを強める

3・1ビギナーの前日、Ring!Link!Zero主催で行われた静岡駅での野外大宣伝・署名行動では青年のうたごえで連携し、うたごえを響かせた。NPT代表団での繋がりが、8月の原水爆禁止世界大会には全国から多数青年が参加した。

大阪では地域の民主商工会と繋がって演奏出演するなど交流を継続している。京都でも青年革新懇や青学連、文化団体連絡協議会などと共同の取り組みを行っている。

互いのサークルの演奏会に他県からも青年の応援が駆けつけるなど全国的に青年のうたごえネットワークが活性化している。

③青年のうたごえ祭典の持続的開催への努力、全国での若い世代との結びつきを模索し追求する取りくみを日本のうたごえ祭典in愛知につなげる

「全国青年のうたごえ交流会in広島」には58人が参加し、全国青年で交流し、かつ大人数で祭典青年合同曲レッスンができる重要な機会として、日本のうたごえ祭典in愛知へのステップとした。また、戦後70年を迎えるなか、被爆者の話を直で聞くことができ、全体の平和学習の機会ともなった。

日本のうたごえ祭典in愛知、青年合同ステージに向けては、本番指揮者が各地に出向き練習会を行い、サークルの演奏会で発表し、全国各地でも音楽づくりを行った。また、現地・全国で継続した保育分野との練習会も行い、協力しながら進めた。

当日のステージは現地・全国、そして学生のステージの学生含め約120人の青年と、保育分野を中心としながら連携した歌い手とともに約320人で歌うことができた。また、沖縄と連携した選曲・作曲者のユキヒロ氏との合同にも感動が生まれた。

6 サークル・合唱団をつくり、大きくし、うたごえ協議会づくり。地域ブロックの連帯活動を活発に

①サークル・合唱団を新たにづくり、合唱団員をふやす活動
関西合唱団の定期演奏会の若者ステージから、「ピース&アミューズ」が誕生。北部センター合唱団が、愛と平和のコンサートの特典員から、うたごえの特別団員へとつなぎ、多くの団員を迎えている。東京では、調布憲法ひろば10周年のつどいの池辺晋一郎氏の指揮で歌う公募合唱団が、つどい後も「この仲間であいつづきたい」と調布平和をうたう合唱団として継続。愛知では、尾張ぞうれっしや合唱団など祭典で立ち上げた合唱団が残った。また、各地で、研究生制度、演奏会に向けた特別団員、市民合唱団など、粘り強い働きかけ、音楽の魅力などで、工夫して新しい団員を増やしている。

②合唱発表会参加団体、協議会加盟団体、うたごえ新聞・季

刊「日本のうたごえ」読者を増やすことを、サークル・合唱団で討議し、目標を持ち、計画的に増やす活動

日本のうたごえ祭典開催を見通して加盟を広げている石川、前年の祭典の成果を加盟に結んだ宮城、70周年祭典開催へとりくみが始まった東京など祭典と結んでの加盟が広がった。

兵庫では、県役員がサークルに足を運び訴えるなど、協議会活動を意識的に行い、加盟が進んだ。大阪では、会長が未加盟団体含めて訪問し、うたごえ新聞購読を訴えるなど足を運んでの活動で成果が見られた。奈良の支局会議と分局担当合唱団ごとの目標設定などの意識的などとりくみは引き続き読者拡大の力となっている。

③加盟団体500、協議会のない県での確立をめざす活動

新たな入会もあったが高齢化などでの活動休止からの退会もあり、全体としては加盟団体数は横ばい。その中で、団員の7割が現役職員という職場サークル「神戸市職員コーラスゆいまーる」の入会は大きい。

佐賀では、九州祭典、全国うたごえ新まつりのとりくみなどを通して、加盟を広げ、県協議会の確立が見えている。東京・南部地域では、加盟団体を広げて地域協議会を立ち上げた。

関東・東京ブロックでは、70周年祭典も展望してブロック活動に活気が出てきた。日本のうたごえ祭典 in えひめに向けて四国各県の実行委員会参加など四国ブロックの交流も進んだ。関西ブロックは毎月の会議で全国テーマについても話し合い、祭典など全国連帯の視野ももって活動している。

7 多くの人に喜ばれるうたごえ出版物をつくり、ひろげる活動

①普及、教育・学習の財産としてのうたごえ出版物をみんなのものにし、魅力ある企画制作と旺盛な普及でうたごえの前進

の力とする

運動の歴史に学ぶものを多く出版した。うたごえ運動の初期から携わってきた選者たちによるCD「選ぶシリーズ」は、曲ができ、歌われた時代背景が今にも通じ、うたごえならではの演奏を収録。また、日本のうたごえ祭典 in 愛知の企画に呼応して「ぞう…」関連商品を出版。歴史がわかるDVDは演奏に取り組んでいるところを中心に普及、「動く絵本DVD」は、「ぞう…」を知らないという人たちにも普及された。また、「はらやん・いくらと仲間たち「夢をまく」」を発売。大音楽会で演奏する曲も収録し、祭典成功への力になる出版物とした。

被爆・戦後70年の年、平和の歌として歌われ続けている「青い空は」を作曲者・大西進氏の執筆や、楽譜を掲載したブックレット『「青い空は」を知っていますか?』。プロデューサー、アレンジヤーに井上鑑氏をむかえ、8通りの演奏で収録したCD『「青い空は」が聞こえますか?』を同時発売。祭典大音楽会で大西氏の指揮で歌う上でも役に立つものとした。沖縄連帯・支援では、11月に歌劇「沖縄」(CD2枚組)、12月に「オール沖縄Peace Song」を発売。反響を呼んでいる。

闘いの現場でうまれた歌などを掲載した「メーカー歌集」を発行。しかし、普及部数は前年を下回った。制作(編集)、普及のあり方など、今一度検討が必要である。祭典歌集は、例年よりも発行が遅くなってしまう。編集体制等、検討が必要。「うたごえ喫茶ソングブック828」シリーズは好評。データディスクを使用したところは、「参加者の顔が前を向き、声がよく出て雰囲気が変わった」という声も聞かれる。

②インターネットを活用したとりくみで新たな層に広げる

楽譜ダウンロード販売では、828楽譜で使用許諾がおりた楽曲はほぼ全て登録を終え利用できるようにした。今後も求められている楽曲など、ダウンロード出来るものを増やしていく必要がある。

8 郷土のうたと踊り

日本のうたごえ祭典 in 愛知の全国郷土合同では、「あゆちの鼓動」を地元の太鼓衆（350人）と全国から東・西郷土講習会参加者（50人）の400人で演奏し、平和の風「あゆちの風」を吹かせ庄巻の演奏でオーピングを飾った。

郷土講習会は、5月に西日本（こうべ輪太鼓センター）、6月に東日本（代々木オリンピックセンター）を開催し、祭典全国郷土合同につないだ。西日本は打鞆人の三門祐輝氏を講師に「あゆちの鼓動」の他、塩原良講師による「八木節踊り」の講習が行われた。東日本も三門祐輝氏を講師に「あゆちの鼓動」を行った。また、昨年続く「すずめ踊り」初級・中級講習が仙台すずめ踊り風羽里の川口知子講師により行われた。「すずめ踊り」は祭典後も長野などで広がっている。

「あゆちの鼓動」の演奏などで専門家との協力を広げてきた。9月に新団体を増やし第18回江戸やつこまつりが、12月には愛知で第28回日本の響き大地の舞、兵庫では6年ぶりの第13回兵庫県和太鼓と民舞のまつりが開催され、「あゆちの鼓動」も合同演奏された。

NPT代表団の郷土芸能演目の「花笠踊り」は、広島のうたごえ祭典でも演奏され、郷土芸能の魅力で参加者に感動をあたえた。

全国協郷土部会の会議を行い、全国の郷土活動、経験交流が進みつつある。

9 専門家及び他団体との情報交流、協力共同により音楽文化の豊かな発展をめざす

NPT報告会を文化団体連絡会議の各団体とともにとりくんだ。原水協との定期的な懇談会が定着し、NPT派遣の運動づくりも協働して取り組むことができた。全国各地の合唱団が専門家とともに演奏会を行っている。

講習会の講師、合唱発表会の審査員などでは、引き続き、専門家の協

力を得た。「戦争法に終止符を！音楽人・団体の会」、うたごえ沖縄基金などのとりくみでも専門家と共にとりくみを進めた。音楽人の会では、9月にコンサートを開きアピールした。

10 世界の音楽家、音楽団体との国際交流の輪をさらに広げる

NPT代表団は現地の教会で演奏交流。また、レイバーコーラスとの5年ぶりの再会もあった。日本のうたごえ祭典 in 愛知では、「ぞう：」のステージに世界各国の子どもたちが参加した。1999年から継続している日韓音楽交流の旅では5月光州民主化運動記念行事参加に加え、高校公演なども行った。紫金草合唱団の初の台湾公演、ハルビン市からの招聘を受けた「悪魔の飽食」の中国公演など国内外で多彩な交流が行われた。

未来を創る連帯の力！うたごえをつないで

2016年活動方針

私たちはいま、ポスト戦後70年という新しいステージに踏み出したと同時に、歴史の大きな岐路に立っている。戦争への道か、憲法9条のもとに平和を守るのかの選択は急を迫られている。

「日本の戦争の息の根を止める、そういう闘いに発展させなければならぬ」と、その止めを刺すのは沖縄から」と身を挺して語る島袋文子おばあ。全国的な沖縄への連帯・支援活動が求められている。

いよいよ2018年運動70年を2年後に見据えた本年。新しい創造活動の発展・展開とともに、運動発展のパロメーターとなるサークル員の拡大、全国協議会への加盟拡大、うたごえ新聞読者拡大は運動の根幹

をなす取り組みである。その実践は、単にうたごえの輪を広げるだけでなく、あらたに人・もの・情報との出会いを創り出し、うたごえ運動6年の歴史と歩みの中から積み上げてきた音楽財産、全国ネットワーク・国際交流等々の運動財産をさらに発展させることにつながる。そのために、2016年度を以下の活動方針ですすめる。

方針〈1〉憲法のこころ、沖縄のこころを歌に、戦争法廃止、辺野古新基地建設阻止、原発ゼロのたかひに連帯し、自由と民主主義を取り戻す一大国民運動構築の一翼を担ううたごえを広めよう。

①憲法蹂躪の戦争法廃止を求める声は世論の多数となっている。一点共闘で廃止にむけた取り組みを全国津々浦々で進めていく。

・2000万人署名に取り組みとともに、「19日行動」はじめ全国各地での街頭・駅頭宣伝等を行い、うたや音楽で廃止をアピールする。

・サークル・合唱団・協議会で「戦争法に終止符を！音楽人・団体の会」への入会、賛同金の訴え等の取り組みをすすめる。

②辺野古新基地建設阻止の取り組みをすすめるとともに全国でも沖縄支援・連帯の取り組みを強める。

・オール沖縄Peace Songポケット歌集を活用し、うたう会、コンサート等機会あるごとに「沖縄を返せ！うたごえ基金」に取り組みとともに翁長知事への激励ハガキや辺野古座り込みへの参加を強める。

・創作曲や替え歌作りで連帯し、支援の輪を広げる。

③東日本大震災の被災地への支援を継続し、復興・再生、原発ゼロの社会をめざす思いを歌にして広げる。

方針〈2〉人々の要求や願いをうたに、「みんなうたう会」を旺盛に展開し、平和憲法を守り生かす、共に生きる町づくり、地域づくり・職場づくり”のうたごえを活発に広げる。

①「いつでも、どこでも、うたごえを」を合言葉に、多種多様な形態で大勢の人とともに歌う喜びの機会と場をひろげる。

・日常の演奏・創造活動を発展させ、平和で健康なうたを普及する。

・全市区町村で、多彩なうたう会活動を展開し、創りうたい広げる普及活動を旺盛に展開する。

②すべての労働者と連帯するうたごえを意識的にすすめる。

③2018年うたごえ運動70年にむかう創造を担う「70年プロジェクト」の取組みをすすめる。

④全国各地で平和コンサートや地域原水協とも協力共同して平和うたう会等を開催し、3・1ビキニデー、平和行進、世界大会につなげていく。

⑤多くの人が「こぞって歌える」愛唱歌を創りだす創作運動を活発にする。

・「みんなでつくり歌う運動」を広げ、新しい創り手を生み出し、創作活動と作品交流を活発にする。

・全国創作講習会を誰もが参加できる内容で成功させる。オリジナルコンサートを充実させるとともに、「オリジナルソングブック」の活用を日常的にすすめる。

方針〈3〉合唱発表会を発展させ、学びあい、創造活動を深める場にする。

①合唱発表会を協議会活動の年間活動の柱に据え、演奏・講評を通じて交流し学び合うという発表会の原点をいつそう輝かせる。

②合唱発表会参加団体を1600団体に、未開催県の今年度開催計画を持つ。

方針〈4〉地方祭典の全都道府県開催をめざし、日本のうたごえ祭典

の長期開催計画をもつ。

①うたごえの普及と演奏創造の集約点となる「うたごえ祭典」の役割を輝かせ、地域や都道府県単位、産業別・階層別の祭典を活発にし、祭典運動の前進をめざす。

②四国で初めて開く日本のうたごえ祭典 in えひめを地元、全四国・全国の連帯で成功させる。

③2017日本のうたごえ祭典 in いしかわ・北陸開催の準備をすすめる。

④2018日本のうたごえ祭典70周年記念祭典を東京都で開催する。

⑤2019年以降の開催計画を持つ。

方針（5）うたごえ運動の魅力と人間的魅力が満載されている、「うたごえ発ジャーナル」としてのうたごえ新聞をいっそう輝かせ、読者を常に意識的に広げる。創刊60周年記念レセプションを成功させるとともに、「うたごえ新聞まつり」で得た人や地域でのつながりの成果を読者拡大に結び付ける。

①創刊60周年記念「うたごえ新聞まつり」開催に伴う、年間1千人の読者拡大目標を追求し、過去最高のうたごえ新聞読者数をめざす。

②規模の大小を問わず「うたごえ新フォーラム」などの全国展開を計画する。

③通信活動を活発にし、全国の活動経験を学びあう。

④季刊「日本のうたごえ」は、運動づくりのテキストとしての位置づけを高め、積極的に活用し、会員の全員購読をめざす。

方針（6）豊かな演奏・創造・普及活動が展開できるために、運動の歴史に学び、運動の理念を受けつぎ発展させる。学習・教育活動を推進しながら、次代を担うリーダーが育つ環境づく

りを計画的にすすめる。

①運動の歴史を引き継ぎ、日常の練習や活動の中で教育活動を重視する。批評活動や運動の理論学習をすすめる前進への力にしていける。

②うたごえ新聞、季刊「日本のうたごえ」を学習・教育活動に積極的に活用する。

③各種全国講習会へのサークル・合唱団からの参加を強める。各協議会やブロック等で指揮者・指導者の交流を活発にし、そのネットワークづくりをすすめる。

④サークル・合唱団・協議会の次代を担うリーダーづくりの計画をもつ。

方針（7）青年サークルづくりや会員を広げる行動を積極的にすすめる、青年・学生の要求と結び合った歌を創り広げる。

①サークル・合唱団・協議会で、青年・学生と繋がる活動を意識的に持つ。

②仲間づくり、サークルづくりへ、団体・分野を越えたネットワークづくりを強める。

③全国青年のうたごえ祭典 in 東京（仮称）を青年のうたごえを活性化する場として位置づけ、青年を積極的に送り出し、日本のうたごえ祭典 in えひめにつなげる。

方針（8）サークル・合唱団をつくり協議会への加盟をよびかけ、県レベルでのうたごえ協議会空白県をなくすために、サークル加盟を積極的にすすめる。地域ブロックの連帯活動を活発にする。

①サークル・合唱団を新しくつくり、サークル・合唱団員を増やす。

②合唱発表会参加団体や協議会加盟団体を目標を持って計画的に増や

していく。

加盟団体500団体をめざす。

③うたごえ協議会のない県の協議会確立を計画を持ってすすめる。

方針〈9〉うたごえ事業出版物の製作と普及、事業活動を旺盛に展開しよう。

①普及、教育・学習の財産としてのうたごえ出版物をみんなのものにし、魅力ある企画制作と旺盛な普及でうたごえの前進の力とする。

・歌劇「沖縄」CD2枚組、「2016メーデー歌集」、CD、DVDなどを活用し、多くの人にうたごえを届け、闘いの大きなうねりをつくる。

・みんなうたう会、うたごえ喫茶の活性化や拡大のために、出版物の活用や普及に努める。

・サークルや合唱団の演奏活動と結んだCD、楽譜などを出版し普及する。

②すべての協議会加盟団体が事業活動が取り組めるよう計画をもち、活発に進める。

③楽譜のネット配信など、インターネットを活用した取り組みをすすめ、新たな層へのうたごえ普及の力にする。

方針〈10〉運動の原点でもある「郷土のうたと踊り」を旺盛に展開し、全国の活動の経験交流などを活発にし、全国講習会を充実させる。

①東西郷土講習会を成功させる。

②地域で活発に行われている活動交流、情報発信、教育資料の整備、指導者の派遣等を担う「全国郷土センター（仮称）」ネットワーキングづくりをすすめる。

③全国の郷土活動、経験交流などの情報をうたごえ新聞に反映させる。

④専門家・保存会との協力関係をすすめる。

方針〈11〉専門家及び他団体との情報交流、協力共同により音楽文化の豊かな発展をめざそう。

①各種合唱講習会、指揮者・指導者講習会はじめ、あらゆる機会をとらえて運動内外の専門家との協力共同をはかり、うたごえの創造的力量をたかめる。

②平和・民主団体との交流を強める。

方針〈12〉世界の音楽家、音楽団体との国際交流の輪をさらに広げる。とりわけ、近年、文化交流も活発化してきているアジアの合唱・音楽情勢に学び、交流の計画をもつ。

おわりに

人類は、地球上の国々で、国内戦争を引き起こし、近隣諸国と戦火を交え、そのたびに大量の戦死者と被災者を出し、いまだに無数の悲劇を生みだしている。

そのような中、戦後70年間、一度も戦争をしてこなかった私たちの国が、いま、その「かたち」や「ありよう」を大きく変えさせられようとしている。

昨年の世代をこえて集い、思いを一つにした空前の全国100万人行動。12万人が国会を取り囲み、怒濤のコールを響かせた。SEALDSの女子学生は「安倍さんがきっかけをくれた。未来をあきらめないこの連帯の手」は決して離さない」とスピーチ。

辺野古の命を懸けた闘いの中にはいつも歌が、その連帯の手となって

一人ひとりの心を繋いでいる。

フランスの哲学者、小説家、劇作家でもあるサルトルの言葉。

「未来は目的であり、希望であって、行動である。行動は失敗もするし、挫折することの方が多い。しかし、挫折の中にはほとんど見分けのつかない成功が含まれている。希望がすっかり失われるわけではない。進歩とはそういう形でしか表現しないのだ」。

私たちは、かつてない混乱のただなかにいる。明るい未来と暗黒の明日の境界線に立っている。

うたごえも今年一年、志を高く、全国津々浦々で歌い交わし、未来を創る連帯の手を大きくさしのべようではありませんか。かすかな光へと歩む道の疲れを喜びに変えながら「人間の尊厳と誇り」を胸に。

◆2016年主な日程予定

◎日本のうたごえ祭典 in えひめ

11月11日(金) 愛媛

青年のうたごえ祭典 in TOKYO

7月16～18日

第60回記念国鉄のうたごえ祭典 in 東京

8月27～28日

教育のうたごえ2016

9月17～18日 福島

第61回電通のうたごえ祭典 in 名古屋

9月17～18日

自治体のうたごえ交流会

9月19日 岡山

医療のうたごえ祭典

10月1日 長野

◎県祭典・ブロック交流会

東京・関東のうたごえ交流会

5月28～29日 千葉

北海道のうたごえ祭典 in 帯広

9月17～18日

信濃のうたごえ祭典

9月11日

広島のうたごえ祭典

9月18日

九州のうたごえ祭典

10月8～9日 福岡

兵庫のうたごえ祭典 in しのみや

10月16日

北陸のうたごえ交流会

10月16日

東日本郷土講習会

6月4～5日 東京

西日本合唱講習会

5月4～5日 愛媛

西日本郷土講習会

5月3～4日 兵庫

東日本合唱講習会

5月21～22日 東京

全国指揮・合唱指導講習会

6月17～19日 長野

創作講習会

6月4～5日 大阪

教育のうたごえ創作講習会

1月29～31日 愛知

電通のうたごえ・全国創作講習会

3月18～19日 愛知

京都創作合宿

4月2～3日 京都

全道合唱講習会

5月21～22日 北海道

九州合唱講習会

7月16～17日 熊本